

東京交通新聞 2008 年 11 月 10 日（月曜日）

<貞包副会長 ETC 割引に意欲>

北九州タクシー協会の貞包健一副会長は 5 日の記者会見で「『タクシーETC 割引』の実現に向け、北九州から行動を起こしたい」と意気込みを語った。

同協会加盟のタクシー会社は現在、北九州高速道路を通行する際、回数通行券を使った割引（本来 500 円が 410 円）を行っているが、同高速道路は、今月 1 日から ETC の運用を開始。それに伴い、同通行券は来年 7 月末まで販売が終了される。再来年 7 月末には利用停止となる。

貞包副会長は「路線バスには、38・8% の割引が継続されるが、タクシーについても、ETC 装着車両は、現状と同じ 18% の割引を認めてほしい」と訴えた。「タクシーETC 割引」をめぐっては、福岡北九州高速道路懇話会などで業界側がタクシーの公共性を強調し、導入を強く求めてきたが、事務局の公社側が「国の方針」として譲らず、平行線となっている。

同様の問題を抱える福岡市タクシー協会でも、冬柴元国土交通相に陳情したが、「割引は大量輸送機関のみ」との理由で認められなかった。福岡都市高速は、昨年 12 月 31 日に回数通行券の利用が停止となり、タクシーでの割引は行われなくなっている。

貞包副会長は「福岡市タクシー協会加盟のタクシーの ETC 普及率は 8・7% で 4970 台中 435 台だ。ETC 割引が実現すれば、タクシーの ETC 化はもっと進むはず」としている。

他地区の高速道路は、首都・阪神高速が 2005 年 7 月、名古屋が 2006 年 12 月に回数通行券の利用を停止。が、同通行券を使った割引が浸透していなかつたため、「タクシーETC 割引」論議は特に起きていない。